Management Club Report

Nov.2011/Vol.107

Monthly Opinion　≪我が医院が守るもの、向かうところ≫

大阪維新の会が大きく飛躍しようとしています。先日の府知事選と市長選のダブル選挙は既成政党が支援する候補者を退け、共に圧勝という結果となりました。日本中の注目を集めさせたことも凄いことですが、多くの大阪府民市民に何らかの期待感を抱かせた行動力には目を見張るものがあります。

本レポートは政治色を出すものではありませんので、どの政党を支持するものでもありませんが、多くの有権者の期待感を集めた事実に対しては、単純に賞賛したいと思います。

また、既成政党の支援は何の効果もなかったという現実にも頷けるものがあります。けなし合いに終始する国会での醜態や、国民を心服させ気持ちをまとめることのできる政党としての能力の欠落に多くの国民が失望しており、その国民感情を大阪の有権者たちが代弁してくれたからです。

国の無策は、歯科医院経営の逼迫にも及ぼうとしています。私たちは国に何を期待し、国に対してどのような貢献ができるのか。それは歯科医院のトップとして、従業員のどのような期待に応え、従業員のどのような貢献を期待するのかを明らかにしていくことに重なってくるのです。

1　我が国は何を守り、何処へ行こうとするのか

『坂の上の雲』最終の第 3 部がいよいよ始まる

NHK テレビが 3 年越しで放映してきた大型ドラマ『坂の上の雲』がいよいよ最終の第 3 部に入ることになりました。

20 年ほど前に文庫本を夢中で読んで以来、日本の平均的な男性大多数と同じようにこの小説の大ファンとなった私は、テレビであれ映画であれ、早く映像化されないものかと待ち望んでいただけに、NHK が放映すると聞いたときには「とうとう来たか！」と喜んだものです。

映像化に至るまで 40 年もの歳月を要したのは、作者である司馬遼太郎が「戦争肯定小説」ととられることを危惧したことにあったと聞きます。しかし、この小説は戦記文学などではありませんし、戦争と平和の功罪を問おうとしたものでもありません。それは読んだ人であれば誰もが分かるところでです。

主人公は『明治という時代』

確かに 1904 年（明治 38 年）に生起した日露戦争を背景に物語は進みますが、戦争そのものを描いたわけではありません。**司馬遼太郎**が綴ったこの大叙事詩は、海上決戦となった日本海々戦を大勝利に導いた立役者**秋山真之**と、彼の